

自立活動だより

紀北支援学校自立活動部

令和4年11月発行

11月号の自立活動だよりは、小学部の1ブロック高学年より5年生、2ブロックの3年生の自立活動の取組について紹介します。

自立活動の授業形態は、子どもの実態や目標に応じて個別または小集団で行い、活動内容も様々です。個人のねらいは自立活動の内容に関連づけて考えています。



【1ブロックの取組】

1ブロック5学年の「時間における指導」は週4時間、2限目に設定しています。

5年生Aさんの事例

*ねらい

『環境の把握』『身体の動き』

- ・目と手の協応を高める
- ・手指の巧緻性を高める
- ・一人で蝶々結びをすることができる

*活動内容

蝶々結びの練習に取り組んでいます。練習に使っているのは、台紙にスニーカーのイラストを貼って穴をあけ、ひもを通した教材を使用しています。紐は2本使用し、紐の動きが視覚的にわかりやすいように色の違うものを使用しています。始めは、教師の手本を見ながら交差に結ぶところまでを反復して取り組みました。その次は片方の紐を輪にするところまでの反復練習。その次は輪に紐をかけるところまでの反復練習等、スモールステップで取り組んでいます。

*成果

紐の色を違う色にしたことにより視覚的にわかりやすいという点と、「緑色を持って」等、教師の言葉がけを聞いてどちらの紐をどう動かせばよいのかわかりやすいという点が、実践して感じるようになってきています。また、この日は『輪を作るところまで』と決めて反復練習しています。このように段階を踏み「今日は5回」等、回数設定することで、集中して取り組むことができます。そして、少しずつステップアップしていくことで、一人で蝶々結びができるようになってきました。継続して練習し、蝶々結びができるようになることで、将来的には紐靴を履いたり、紐付きのエプロンを着たり等、日常生活に繋がっていけばと考えています。



※教師による見本



【2ブロックの取組】

2ブロックの「時間における指導」は毎日2限目に設定しています。身体面の向上をめざすばかりではなく認知面を高める取組も行っています。

3年生Bさんの事例

*ねらい 『身体の動き』

『コミュニケーション』『人間関係の形成』

- ・筋の短縮、拘縮の予防やボディイメージを身につける
- ・要求を色んな方法で伝え、誰にでも伝えることができる

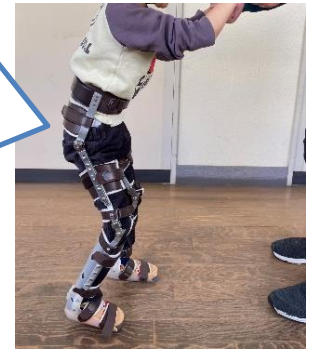
*活動内容

①朝の自立活動の時間では身体面をメインに取り組み、体操・歩行・起立台を使用した立位を行っています。歩行練習では教室の端から端まで歩いた後は、本人が行きたい場所を決め、そこを目指して歩いています(※写真1)。②本児は認知面ではひらがなを理解しており、現在、指文字やマカトンサインを使ってコミュニケーションを行っていますが、より多くの人に自分の思いが伝わるようにiPadの練習にも取り組んでいます。教師の顔写真のボタンを押して教師を呼んだり、右下の写真(※写真2)などを使って要求を伝えたりする練習を通してコミュニケーションの幅を広げています。

*成果

①の歩行練習では行きたい場所(主にほかのクラス)を自分で決めることで意欲が増し、歩行距離が伸びてきています。そして、そこにいる教師や友達と挨拶や会話をすることでコミュニケーションの練習にもなっています。②iPadで少しずつ自分の思いや要求を伝えられるようになってきました。自分の名前や好きなものを一文字ずつ打って伝えたり、お昼休みにしたいことを選択しボタンを押して伝えたりするなど日常生活で活用する場面が増えてきています。

歩く時は足を上げて歩くことを意識するように言葉かけを行うよ！この日は隣のクラスに挨拶に行ったよ。

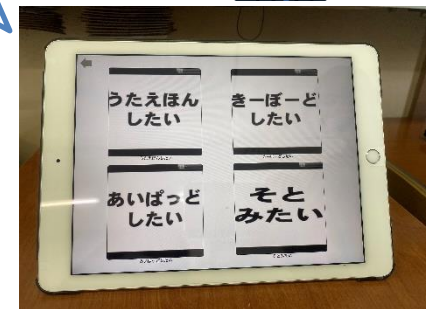


※写真1

膝継ぎ手をロックしたver.でも歩いているみたいだよ。頑張れ〜！



『誰と』で教師の顔写真を選び、その後に『やりたいこと』を選択するよ！



※写真2

*本号で紹介した事例はほんの一部ではありますが、自立活動では、児童生徒の様々な側面の発達を促進するために、個々の実態に応じた目標・課題を設定し取り組んでいきます。

